

第14回

東奥少年少女文芸大会

柔らかい感性、みずみずしい言葉。第14回東奥少年少女文芸大会の最高賞伝達式が2月20、28日、県内の各学校で行われ、短歌・俳句

ー ジ
小学生

努力
分こす

感性柔らかか 最高賞16人

・川柳部門の天位、詩部門の入選一席に輝いた児童生徒16人に賞状が贈られた。短歌2479人、俳句4959人、川柳2515人、詩606人の計10559人から応募があり、入選作品は2月15、18日付朝刊で発表した。大会は県内の小・中学生と高校生に、作歌・作句・作詩を通じて美しい言葉を身につけ、感性や創造力を磨いてもらうこと、東奥日報社と東奥日報文化財団が共催。県教育委員会、県歌人懇話会、県俳句懇話会、県川柳連盟、県詩人連盟が後援した。

短 歌

合唱練習の不安表現



クラスみんなの意見が合わず
文化祭へ向かう空気が狂いはじめる

澤村 心さん
(三沢・堀口中3年)

澤村さんは2月22日、校長室で太田隆校長から賞状を受け取った。
歌の題材となったのは、文化祭で行われるクラス対抗の合唱コンクール。練習で、各パートの音がなかなか合わず「本番は一つにまとまるのかな」と不安に感じた気持ちを表しました。

大野 朱里さん
(大間高3年)

春と合格待つ心 歌に

もういいかい寒冷前線
もういいよ合格通知と桜前線



大野さんは2月28日、同校で安達健夫校長から賞状を受け取った。
友人たちがAO入試や推薦で先に「合格」を決める中、迎えた勝負のセンター試験。自宅のある風間浦村から、むつ市の試験会場へ母の車で向かった。道中の峠はつるつるに凍っていた。「寒波は嫌だ

室で中谷真美校長から賞状を受け取った。
冬休み明けのある日。「今日は一緒に帰る友達がいなくて寂しいな」と、一人帰り道を歩いていたら、雪が降ってきた。
「私の肩に雪がのって、一人一人が遊ぼうよと言っている」と語った。

室で中谷真美校長から賞状を受け取り「天位を受けるのは思っていなかったの、びっくりしました」とはにかんだ。
詩的感性が素晴らしいと選者が評した受賞作は、4年生になって部活動でクラリネットを吹くようになり、先輩

俳

私

木村

木村さんは、室で館村栄受け取った。お正月なずっと回りはない。それを振り返っていきな

は楽しい時間